

## 第610回 新潟放送番組審議会 議事録

### — 議題 —

#### テレビ番組

「B S N戦後 70 年特別番組 真珠湾に咲く長岡花火 平和の祈り 15 の夏」



平成 27 年 9 月 14 日

**BSN新潟放送**

## 第610回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成27年9月14日（月）午前11：00～

2. 開催場所 新潟放送 本社6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	委員	正道かほる
委員	古賀豊	委員	小島良子
委員	高井盛雄	委員	佐藤元
委員	佐藤明		

○委員側欠席者

副委員長	相羽利子	委員	佐々木広介
委員	細田康		

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
営業局長	斎藤和利	編成局長	島田好久
報道制作局長	太田志信	ラジオ本部長	高坂元己

事務局

事務局長	増山由美子	(広報部長)
事務局員	丹羽崇	(社長室長)

4. 議題 1、報告事項 「10月の新番組・単発番組」報告

2、審議事項 テレビ番組

「BSN戦後70年特別番組 真珠湾に咲く長岡花火 平和の祈り15の夏」

放送日時 2015年9月5日（土）午後4：00～4：53

5. 議事の概要

各局長からの10月度番組報告に続いて、審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- この夏、戦後 70 年の特別番組が色々放送されたが、今回は 15 歳の生徒たちの視点を切り口にしていて、良い目の付け所だと思う。すばらしい番組だった。番組の最初にかなりの時間を割いた真珠湾攻撃などの部分は説明が少し長かったという印象もあるが、初めて見る人には歴史の紹介が必要だったのかもしれない。主人公の生徒以外にインタビューされた子供についても字幕スーパーで氏名が出ていたら、家族が喜ばれたのではないか。ハワイのパールハーバーサバイバーと長岡の語り部の両方の思いがバランス良く伝わった。長岡での交流会のラストでスクラムを組み歌ったシーンは、そこにいくまでの過程をもう少し膨らませて描いてほしかった。主人公の高田君は外国人と接して、ものすごく大人になり、良い顔になったのを他の中学生にも見てほしい。こういう体験を経た生徒は大人になると視野が広がるので、大勢の人に体験してほしい。
- ハワイから長岡、そしてハワイの花火という、とても素晴らしい構成。映像が綺麗で気を使って撮影していたように感じた。番組最初の説明はあの位の分量で伝えないと分からぬのでむしろ良かった。花火職人の苦労話などが全く紹介されていなかったが、15 歳の中学生と戦争で生き残った 90 代の 2 グループに焦点を絞り、はっきりしていてむしろ良かった。
- 戦後 70 年の節目の番組は色々あったが、今回は細かな映像資料をふんだんに使って戦争の悲惨さを伝えていて、見ごたえがあった。長岡の花火が真珠湾への思い、中越地震の復興のシンボル、そして長岡空襲の鎮魂であることを深く認識した。「戦争から何も生まれない」という長岡の語り部、そして「不快な任務」であるというハワイのパールハーバーサバイバーは同じことを伝えていると思った。同時に花火の下ではみんなが公平で平等だと思った。
- 一時間があつという間に終わったと感じるほど、良くできた番組。番組タイトルスーパーの「咲」くの「口」の部分が花火の形になっていたが、視聴者の年代によっては読みにくかったので普通の字体を使った方が良かった。数珠を持って花火を見ている高齢者の姿は衝撃的で、丁寧に撮影していると思った。他局の番組と見比べて、軍人越しの花火の映像は涙を浮かべて見てしまうくらい綺麗に撮影されていた。
- 15 歳の高田君は非常に聰明だったが、どうして番組の主人公に選んだのか理由を知りたい。彼と対置する形でパールハーバーサバイバーがいて、それぞれ色々な意見を持ち、お互いに価値観の違いや共通点があることを見事に表した構成だった。心を動かされた。綺麗で凜とした白菊の花火は本当に良いと思えた、素晴らしい番組だった。
- テーマが盛り沢山で話が散らばりそうなところを高田君を芯に据えた構成で、まとまりよく、分かり易くなった。また、古臭い印象にならずに、共感できた。ハワイで旧日本軍の事は憎まれていると思ったが、山本五十六を理解している人もいて、新潟県民としてホッとした所もあった。戦争を起こすことは愚かであり、平和が大事という

メッセージが番組全体から立ち上っている。8月15日はあくまでも日本にとっての終戦記念日であり、ハワイにとって特別な日ではないと思うが、今回は長岡花火のためにイベントを計画したのか、それともハワイでも毎年何らか行事が行われているのに合わせて花火を打ち上げたのか、状況が知りたい。

- 戦後70年はB S Nに限らず取り上げているが、今回は流れを感動的に伝えて、企画力が際立った番組だった。戦争を知らない世代が日本国民の8割に上るといわれている中、高田君をメインにハワイの同世代がどう考えるか、そして花火に対する日本とアメリカの価値観の違いを分かり易く綺麗な映像で伝えていた。3発の白菊の意味合いをそれぞれ字幕スーパーで伝えた方が良かった。長岡で白菊が打ちあがる際、市内の寺院で鐘が鳴ることをきちんと紹介していた。真珠湾攻撃で深い傷を負った人も紹介して、両面の意見を取り上げていた点がすごく良かった。中学生たちの平和サミット宣言は何らかの形で全文を紹介すべきだったのではないか。

～長岡支社報道制作部・神田優記者から～

貴重なご意見をお寄せ頂き、感謝しております。

- 去年3月にハワイ・ホノルルを取材した際、日本人はアリゾナ記念館など、見るべきものを見ていないのではないかと疑問を感じた。一方で、長岡の高齢者が涙を流しながら花火を見ている姿に、真珠湾をテーマに番組を作りたいと思った。また、中学生に視点をあてたのは、同じ中学生たちに、さらには多くの人に見てほしいとの気持ちがあった。そのためには、番組の最初に真珠湾攻撃を知ってもらう必要があると思い、時間を割いた。高田君を主人公に選んだのは直感的で、カメラを嫌がらず、大人と会話できる点も魅力的だった。8月15日はアメリカにとって「普通の日」で、イベントなどは無いが、8月15日に真珠湾で花火を上げることに意味があると長岡市側が丁寧にハワイ側に伝えて、アメリカ軍が理解した結果、白菊打ち上げが実現した。今回は他のディレクターと一緒に制作を進めたが、取材する中で平和サミット宣言も大事だが、その議論のプロセスを重視して、そこに放送時間を割きたいと考えた。花火打ち上げというプロジェクトを通じて、中学生たちに芽生えたものがあるので、取材を続けて何らかの形で露出したい。